

日本社会心理学会  
第 62 回大会プログラム

帝京大学（Web 開催）

2021 年 8 月 26 日（木）・27 日（金）



## 開催にあたって

日本社会心理学会第 62 回大会のプログラムをお届けいたします。

今年 of 大会は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため Web 上で開催する形式となっております。今大会の準備は、帝京大学が担当いたします。昨年の大会に引き続き、研究発表は口頭発表とポスター発表の区別をせず、領域ごとにセッションを分けてプログラムに掲載しています。

本大会の構成は、大会参加者による Web 発表、大会準備委員会企画シンポジウム・招待講演、自主企画ワークショップ、そして総会となっております。これらには、オンデマンドによる動画配信のものとリアルタイムによるライブ配信のものがありますので、お間違いないようお願いいたします。詳しくは、以降のページの日程表でご確認ください。

Web 発表はオンデマンド方式で行われます。発表資料のファイルは Web 上に掲載され、大会参加者はそれを自由に閲覧し、チャットによる質疑応答や討論を行うことができます。Web 上での発表資料の公開及び質疑応答の期間は、会期をはさんで 8 月 25 日(水)から 9 月 1 日(水)の 8 日間です。

総会はリアルタイムで行われます。日本社会心理学会の会員はどなたでも参加できます。

Web での開催を強みとして活かして、国際的な研究に触れる機会や活発な討論がなされる場となることを願っております。

日本社会心理学会第 62 回大会準備委員会  
委員長 敷島 千鶴

## 大会に関するご案内

### 1. Web 開催について

本大会は Web 開催となっています。Web 発表, 自主企画ワークショップ, 大会準備委員会企画シンポジウム・招待講演を実施します。Web 発表には口頭発表・ポスター発表の区別はありません。大会参加者は, 発表資料の閲覧, 発表者への質疑応答, 自主企画ワークショップと大会準備委員会企画シンポジウム・招待講演への参加ができます。それぞれのアクセス方法につきましては, 大会ヘルプデスクよりメールにてご連絡します。

### 2. 諸費用

①大会参加費	正会員(一般)	7,000 円
	正会員(大学院生)	4,000 円
	準会員・学部学生	2,000 円
	臨時会員	9,000 円
	名誉会員	無料
	法人会員	2 人目まで無料, 3 人目以降は 7,000 円
②論文集購入費		6,000 円

※名誉会員の方は, 大会参加費・論文集購入費は無料です。

大会参加と論文集購入の申込は 8 月 31 日(火)までオンラインで受け付けています。詳細は大会 Web サイトをご確認ください。

### 3. 総会・表彰式

1 日目の 13 時 00 分から 14 時 30 分まで, ライブ配信で開催します。学会会員は大会参加者でなくても参加することができます。アクセス方法等は日本社会心理学会より会員の皆様にメールでお知らせします。

### 4. Web 発表・質疑応答

本大会の Web 上に 8 月 25 日(水)から 9 月 1 日(水)まで発表資料を公開します。大会参加者はこの期間中に質疑応答システムを介して発表者とやりとりすることができます。

アクセス方法は, 大会ヘルプデスクより大会参加者の皆様にメールでお知らせします。

## 5. 自主企画ワークショップ

各ワークショップの開催時刻、配信形式(ライブ, オンデマンド)はプログラムでご確認ください。アクセス方法は、大会ヘルプデスクより大会参加者の皆様にメールでお知らせします。

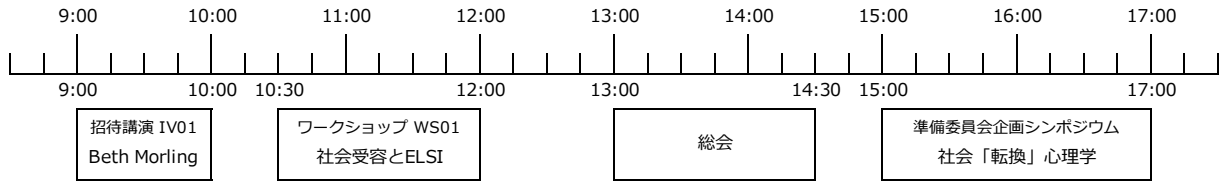
## 6. 招待講演

開催時刻、配信形式(ライブ, オンデマンド)はプログラムでご確認ください。アクセス方法は、大会ヘルプデスクより大会参加者の皆様にメールでお知らせします。

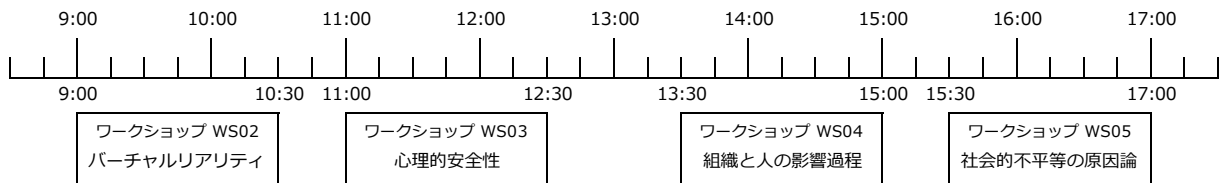
## 7. 大会準備委員会企画シンポジウム

1日目の15時00分から17時00分まで、ライブ配信で開催します。アクセス方法は、大会ヘルプデスクより大会参加者の皆様にメールでお知らせします。

**第1日目 8月26日(木) : リアルタイム配信**



**第2日目 8月27日(金) : リアルタイム配信**



**8月25日(水) ~ 9月1日(水) : オンデマンド配信**

招待講演 IV02 Joshua Correll	招待講演 IV03 Joshua M. Tybur	招待講演 IV04 Jamil Zaki	ワークショップ WS06 Dark Triad/Tetrad
-----------------------------	------------------------------	-------------------------	-----------------------------------

※大会期間中、いつでも視聴できます。

**Dr. Beth Morling**

University of Delaware

**Teaching social psychology after the replication crisis**

What should we be teaching in undergraduate psychology courses—especially after the replication crisis shook up what we knew about our field? I suggest we affirm the original foundation for undergraduate education in psychology: Quantitative, empirical reasoning about human behavior. In the aftermath of the replication crisis, the curriculum can both change and stay the same. Methods courses should modernize to address preregistration over p-hacking, effect sizes over p-values, open science over competition, and skepticism over “proof.” Content courses should teach theories and findings, but mainly as a vehicle for delivering the critical thinking core of psychology: theory testing, evidence-based argument, clear writing, and learning how to learn.

**Moderator:**

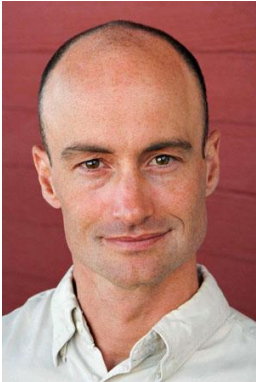
Sayaka Suga (Keio University)

Kai Hiraishi (Keio University)

Chizuru Shikishima (Teikyo University)

**Dr. Joshua Correll**

University of Colorado

**Reconsidering the effects of cross-race contact on face perception**

In a recent theoretical model (Correll, Hudson, Guillermo, & Earls, 2016), we proposed that cross-race contact alters face processing, influencing both individuation (particularly the cross-race recognition deficit or CRD) and race-based classification. This model particularly predicts effects based on expectations and perceptual expertise (rather than attention and motivation). Our lab's early empirical tests, however, showed disappointing results. We therefore embarked on several projects in an effort to better conceptualize and study this relationship. I will describe both the original theoretical model and our new work. In particular, I will discuss (a) development of a scale to more effectively measure contact, (b) a meta-analysis of the contact-CRD relationship, (c) an effort to use multidimensional scaling to precisely estimate the mental representation of faces, and (d) efforts to uncover the aspects of facial morphology that influence face differentiation. The results of these studies suggest that methodological issues often compromise estimates of the contact-CRD relationship, but that (when measured appropriately) the relationship is real and potentially much more influential than previously thought. The results also provide insight into the psychological processes that give rise to the CRD, suggesting that many models (including our own) are either incorrect or incomplete.

**Moderator:**

Tomoko Oe (Teikyo University)



**Dr. Joshua M. Tybur**

VU Amsterdam

**The psychology of infectious disease – before, during, and after COVID-19**

In 2020, SARS-CoV-2, a novel pathogen spread primarily via respiratory droplets and aerosols, brought the world to its knees. While this specific coronavirus was new, the broader threat posed by infectious disease was not. Indeed, every human that has walked the planet has been threatened by pathogens, just as all complex forms of life on earth have been. In response to these threats, humans (again, like all complex organisms) have evolved myriad anti-pathogen defenses. Many of these defenses are behavioral in nature and, consequently, they influence myriad phenomena of interest to social psychologists. This lecture will outline how our anti-pathogen psychology is specialized for detecting infectious microbes (e.g., via olfaction, vision, and taste), for balancing the costs of avoiding infection against the benefits of other adaptive behaviors (e.g., child-rearing, eating), and for deploying emotions (e.g., disgust) and behaviors that neutralize pathogens. It will further describe how our anti-pathogen psychology influences behavior during a respiratory pandemic (such as the COVID-19 pandemic), and how it does not. Finally, the lecture will describe the most fruitful areas for research that can further illuminate how humans avoid infectious disease.

**Moderator:**

Kai Hiraishi (Keio University)

Chizuru Shikishima (Teikyo University)

**Dr. Jamil Zaki**

Stanford University

**Unforced errors in our emotional lives**

People commonly regulate their emotions in response to affective goals—for instance, to feel happy, or to experience emotions that are useful at a given moment. But where do affective goals come from? In this talk, I argue that people hold consistent theories about emotion, including their structure, function, and utility. These theories guide emotion regulation, affect, and behavior, but are sometimes miscalibrated, leading people to make "unforced errors" in their emotional lives. I present two lines of work that examine such theories. In the first, we find that people vary in their beliefs about happiness. Some individuals believe it is zero-sum, such that one person's happiness comes at the cost of another's. This belief tracks reductions in prosocial behavior and happiness. In the second, we find that people vary in the extent to which they believe empathy is useful in the political domain. People with negative theories of empathy report less interest in inter-party compromise or social connection. Across both lines of work, we find that changing people's emotion theories can shift their behavior in more adaptive directions, providing hints as to how we can help people avoid unforced emotional errors.

**Moderators:**

Yu Niiya (Hosei University)

Tomoko Oe (Teikyo University)

## 社会「転換」心理学 — 社会が変わる, 社会を変える

- 企画者： 日本社会心理学会第62回大会準備委員会  
堀田 結孝 (帝京大学), 大江 朋子 (帝京大学)
- 司会者： 堀田 結孝 (帝京大学)
- 話題提供者： 池田 謙一 (同志社大学)  
内田 由紀子 (京都大学)  
坂田 桐子 (広島大学)  
浜井 浩一 (龍谷大学 非会員)
- 指定討論者： 唐沢 穰 (名古屋大学)

### 概要

AIの発展に代表されるテクノロジーの進歩, SNSを通して世界中の誰ともつながるグローバル化により, もはや10年前の生活が思い出せないほどのスピードで, わたしたちの社会は変化している。更に, COVID-19のパンデミックは, わたしたちの生活を大きく変容させ, 新しい生活様式がスタンダードとして受け入れられつつある。同時に新たな時代の到来は, わたしたちに従来の価値観からの転換を迫る。働き方改革, マイノリティへの配慮, 持続可能な開発目標などに代表されるように, 前時代からの価値観や社会の転換が, 国内においても重要な課題として近年認識されている。

本シンポジウムでは, 政治, 文化, ジェンダー, 司法など多様な視点から, わたしたちの価値観や行動がどう変化してきたか, 価値観が変わることで社会がこの先どう変化していくか, そしてわたしたちは社会をどう変えていくべきかについて議論する。

はじめに, 池田謙一先生・内田由紀子先生のご講演から, 日本人の価値観の変遷について概観していく。池田先生には, 日本人の価値観や民主主義の変化を COVID-19 による影響と交えてご講演いただく。内田先生には, 文化的価値観や幸福感の比較文化研究についてご講演いただく。続いて, 坂田桐子先生・浜井浩一先生のご講演から, 社会の変化の予測について概観していく。坂田先生にはジェンダーに関する課題とダイバーシティ社会についてご講演いただく。浜井先生には統計データをもとに犯罪事件の変化についてご講演いただく。最後に, 指定討論者の唐沢穰先生には, 今後の社会転換に向けて社会心理学が取り組むべき課題を挙げながら, 本シンポジウムの総括をしていただく。

本シンポジウムがコロナ禍の時代, そしてポスト・コロナへの時代のうねりを渡り抜く上での道標となることを期待したい。

## スマートシティにおける社会受容と ELSI

企画者： 唐沢 かおり (東京大学)

司会者： 唐沢 かおり (東京大学)

話題提供者： 田井 光春 (日立製作所・日立東大ラボ 非会員)

橋本 剛明 (東洋大学)

清水 佑輔 (東京大学)

尾崎 信 (東京大学 非会員)

指定討論者： 藤井 聡 (京都大学)

### 概要

近年、社会生活を支えるコミュニティのあり方について、スマートシティというコンセプト下での議論や設計、技術の実装がすすめられている。スマートシティは、「都市が抱える諸問題に対して、ICT等の新技術を活用しつつマネジメントが行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区」(国土交通省)と定義されている。その根幹をなすのは、私たちの行動や環境に関わるデータを収集し、仮想空間内で解析・統合、その結果を現実空間の設計や活動の最適化に用いるシステムであり、これにより、高度なコミュニティサービスの提供が可能となり、快適で幸福な生活が実現できるとされている。

しかし、地域住民の反対による挫折例、また個人情報漏洩、メリット享受の不公平性、経済や技術優先への不安などの点から、社会受容、ひいては、スマートシティの倫理的、法制度的、社会的課題(Ethical, Legal and Social Issues: ELSI)が問題となっている。コロナ禍という状況もあり、情報インフラ・倫理・法のあり方が問い直されているなか、学際的議論が求められている。

では、この課題について、人々の態度や、社会関係・制度のなかでの行動を研究対象としてきた社会心理学はどのように貢献しうるのだろうか。本WSでは、スマートシティの現状や社会受容に関する研究知見を共有し、この問いに向き合うための議論を深めたい。

WSでは田井氏が、スマートシティ構想と経済界の動向や国内外のスマートシティの現状を報告する。ついで、橋本氏・清水氏両名より、スマートシティの社会受容に関わる心理的要因(たとえばリスク認知や信頼)の整理、および態度調査に基づく実証的な検討結果を報告する。最後に尾崎氏が、失敗事例として著名なトロントのサイドウオークの分析に基づき、「失敗」の背後にあるダイナミクスを報告する。指定討論では藤井氏に、社会心理学の果たすべき役割・責務や科学技術と人・社会の関係について議論いただく。

## 生体ストレス反応を測定する実験でのバーチャルリアリティの利用

企画者： 大江 朋子 (帝京大学)

司会者： 大江 朋子 (帝京大学)

話題提供者： 西口 雄基 (東京大学)

實吉 綾子 (帝京大学 非会員)

大江 朋子 (帝京大学)

### 概要

生体反応や反応時間を記録する実験室実験を行うときには、一般に環境の厳密な統制が必要になる。このような実験をする研究者たちは、画像や単語などの静的な刺激を作成してPC画面上に呈示するなど、刺激を与える環境を絞り込むとともに、その環境に余計なものができるだけ混入しないように注意を払い、実験環境を極限まで統制しようとする。この種の研究アプローチには、特定の刺激に対する反応の細やかな違いを検出することができるという利点があり、この利点が現在に至るまで社会的認知研究を発展させてきた要素だと言える。しかしながら、わたしたちの実際の社会生活は他者との交流を含む動的なものであり、そこには四角い画面の中にある静的な状況では得られない社会的な認知や生体反応が生じ、それが行動を生み出す引き金となることがある。この研究アプローチの制限を超えて実験室実験の生態学的妥当性を高めていくことは、これからの社会的認知研究の重要な課題の一つだと考えられる。

バーチャルリアリティ (VR) は、この課題に挑む手段の一つとなるかもしれない。近年、VRはますます身近になってきた。メディアでもしばしば取り上げられ、体験できる機会も増え、安価な機材を購入して自宅で楽しむこともできる。日本社会心理学会の第6回春の方法論セミナー (2019年3月開催) においても、「社会心理学者のためのVR入門」という企画で、心理学とその関連領域でVRを利用した研究や、VRを実際に研究に導入する手法が紹介され、VRを用いた社会心理学研究の可能性を考える機会が与えられた。その後、日本の社会心理学的な研究で本格的にVRを取り入れたものはあるだろうか。学会で発表された研究、準備中の研究もあるが、研究を実施するまでの道のりにはまだハードルがあるかもしれない。

本ワークショップでは、他者と相互作用する際の生体ストレス反応 (e.g., 唾液中のコルチゾールやアミラーゼ、心拍) を測定した社会心理学的研究を、VRを実際に利用し始めた研究者を交えて紹介する。話題提供者らは、主に面接場面での参加者の生体ストレス反応を測定した実験を紹介する。話題提供者の西口はVRを用いない状況での実験結果を、實吉と大江はVRを用いた状況で同様の実験を行った結果を報告する。最後に、VR空間での他者との相互作用を扱う研究の利点と制約、VRや他のデバイスを利用した今後の社会的認知研究の可能性について議論する。

## チームの「心理的安全性(psychological safety)」に関する社会心理学的研究の今と将来

企画者： 山口 裕幸 (九州大学)

司会者： 山口 裕幸 (九州大学)

話題提供者： 池田 浩 (九州大学)

縄田 健悟 (福岡大学)

山口 裕幸 (九州大学)

指定討論者： 繁柁 江里 (青山学院大学)

青島 未佳 (KPMG コンサルティング 非会員)

### 概要

心理的安全性は、Schein & Bennis (1965)や Kahn (1990)によって、組織の創造的変革やメンバーのワークエンゲージメント促進の文脈で、その重要性が指摘されていたが、Edmondson (1999)が「学習する組織」の構築に不可欠な要素として取り上げたことによって、さらなる注目を集める概念となった。彼女によれば、チームの心理的安全性とは、このチームでは、率直に自分の意見を伝えたときに、他のメンバーによって拒絶されたり、攻撃されたり、恥ずかしいことを言う人だと批難されたりして、対人関係の悪化を招くのではないかと心配をする必要はないという信念が、チーム全体で共有されている状態を意味する。

チームのメンバーたちの相互作用が生み出す集団レベルの創発特性に関する社会心理学研究は、Lewin の「心理学的場」理論の提唱をはじめとして、集団の規範や文化、ソシオメトリー等の対人関係ネットワーク、チームワークや共有メンタルモデル等に注目し、その生成過程と測定およびその影響について検討してきた。「心理的安全性」の研究は、これらの集団創発性に関する研究に新たな視点をもたらすことが期待される。

他方、組織やチームのマネジメントにとって、メンバー同士が闊達にコミュニケーションを交わし、刺激しあって、斬新で創造的な職務遂行の実現の促進を考えるうえで、「心理的安全性」を構築するマネジメント、リーダー行動とはいかなるものかを明らかにする取り組みは、組織経営における切実な実践的課題となっている。

このように理論的にも実践的にも注目を集める「心理的安全性」に関する実証科学的研究は、現在、どのように行われ、いかなることが明らかになり、将来どのように展開されようとしているのか。このワークショップでは、具体的な実証研究の成果報告を行うとともに、今後の研究の展望について議論する。

- 【話題提供】
1. 池田 浩 「組織・チームの『心理的安全性』とリーダーシップ」
  2. 縄田健悟 「『心理的安全性』とチームプロセスの諸変数との関係性」
  3. 山口裕幸 「『心理的安全性』の構築を促進するチーム力開発方略」

- 【指定討論】
1. 繁柁江里 組織を対象とする社会心理学研究の視点から
  2. 青島未佳 組織現場におけるチーム力開発の実践の視点から

## 組織と人の影響過程—職場適応に関する臨床社会心理学

- 企画者： 塚原 拓馬 (実践女子大学)  
司会者： 塚原 拓馬 (実践女子大学)  
話題提供者： 塚原 拓馬 (実践女子大学)  
杉山 崇 (神奈川大学 非会員)  
北村 英哉 (東洋大学)  
指定討論者： 坂本 真土 (日本大学)

### 概要

職務適性や組織風土とのミスマッチ、ジェンダーギャップなどによる職場不適応は、個人の問題だけでなく、所属する集団・組織に何らかの課題(問題)がある場合がある。こうした集団適応に対するアプローチとしては、社会心理学的知見に基づいた現象の理解と対応法の探索が有効ではないだろうか。それは、職場不適応が、組織とのミスマッチ、職場のコミュニケーション不全、(ジェネレーションやジェンダーギャップによる)上司・同僚とのコミュニケーション困難など、組織的な影響過程(集団力学)により生じているとも考えられるからである。

また、対応においても、例えば、従来型のうつ病に対する対応の仕方を新型うつへ適用することは不適切であり、その特性の違いを概念・理論的に明らかにし、その基礎的知見に基づいた対応法を検討することが有効であろう。また、予防対策や人材育成、職場改善という視点からも、エビデンスに基づいた社内外の研修を活用することが求められている。

そこで、今回のシンポジウムでは、組織と人の影響過程に着目して、社会心理学的知見に基づいた現象の理解や、対応法について議論したい。また、実際の支援や実務場面において成功・失敗事例を基に、その事例から見出せる臨床実践、実務場面における臨床社会心理学的アプローチの可能性について議論したい。

#### ○企画・司会 話題提供者 塚原 拓馬 (実践女子大学)

企画趣旨説明、復職支援成功・失敗事例により組織と人材の影響過程が職場適応に与える影響について、分析結果等も交えて臨床社会心理学的アプローチの可能性について議論する。

#### ○話題提供者 杉山 崇 (神奈川大学)

Bodner & Mikurincer のパラノイア(他者の敵意や悪意に過敏になる状態)の *camouflaged depression* 仮説に注目し、新型うつ病とよばれる状態がコーピングである可能性を検討したい。何に対するコーピングが、どうすれば仕事へのモチベーションを作り出せるか、広く可能性を議論したい。

#### ○話題提供者 北村 英哉 (東洋大学)

ジェンダー・バイアスの観点から職場で生じる適応問題やワーキング・モチベーションの減退に関わる現象をとりあげて論じる。

#### ○指定討論者 坂本 真土 (日本大学)

## 社会的不平等の原因論—遺伝環境相互作用の立場から

- 企画者： 敷島 千鶴 (帝京大学)  
司会者： 敷島 千鶴 (帝京大学)  
話題提供者： 山形 伸二 (名古屋大学 非会員)  
川本 哲也 (国土舘大学)  
敷島 千鶴 (帝京大学)  
安藤 寿康 (慶應義塾大学 非会員)

### 概要

人間の形質の個人差に及ぼす影響を、遺伝と環境という枠組みから検討する方法に行動遺伝学のアプローチがある。この統計学的方法では、形質に観察される類似性を、一卵性双生児対と二卵性双生児対の間など、家系内の異なる家族関係の間で比較することにより、その形質の背後に仮定した遺伝要因と環境要因の寄与の大きさを量的に推定する。

この方法論を用いて、慶應義塾ふたご行動発達研究センター (KoTReC) では、1998 年以来、1970~2011 年生まれの双生児男女 8000 組以上を対象に、人間の広範な形質と、その個人を取り巻く家庭や社会の背景を繰り返し測定してきた。そして、身体的形質のみならず、パーソナリティや感情という心理的形質の個人差にも、さらには、社会的態度や向社会性、教育的・社会的達成という社会的形質の個人差においても、遺伝の影響が寄与していること、しかしそれらの寄与は決して固定的、決定的ではなく、年齢や時代、社会的・文化的背景によって発現の程度を変えていることを明らかにしている。

本ワークショップでは、これまで KoTReC が行ってきた双生児研究から得られた知見を幅広く紹介する。具体的には、話題提供者 1 は成人期の主観的幸福感とパーソナリティの関連性に見られる遺伝と環境の影響を報告する。話題提供者 2 は小中学生の社会情緒的コンピテンスの個人差に寄与する養育行動の影響について、話題提供者 3 は小中学生の学力に及ぼす遺伝と家庭の影響について、それぞれ 2 時点のパネルデータの分析結果をもとに紹介する。また話題提供者 4 は小中学生ならびに高校生の学力に及ぼす遺伝と家庭の影響について、大規模横断調査の結果を報告する。

遺伝と環境が絡み合う複雑な相互作用から、教育格差や階層再生産、地位の世代間継承という社会的不平等をどう説明することができるのか。行動遺伝学が社会心理学に貢献し得る可能性を議論する。



## Dark Triad/Tetrad と問題行動を再考する—社会的関係性の視点から

企画者： 喜入 暁 (大阪経済法科大学)

司会者： 喜入 暁 (大阪経済法科大学)

話題提供者： 喜入 暁 (大阪経済法科大学)

増井 啓太 (追手門学院大学)

下司 忠大 (早稲田大学)

指定討論者： 古村 健太郎 (弘前大学)

### 概要

社会的に望ましくない行動・思考スタイルを示しがちなパーソナリティ群として、Dark Triad, あるいは Dark Tetrad が挙げられる。これは、マキャベリアニズム, ナルシシズム, サイコパシー (およびサディズム) の総称であり、冷淡さ, 他者操作性, 自己中心性などを共通の特徴とし、実証的研究においても Dark Triad/Tetrad がさまざまな問題行動を説明することが明らかにされている。

しかし、これまでの多くの研究では Dark Triad/Tetrad と問題行動との直接的な関連や、個人特性としての個人内過程に関する側面に注意が向きがちであり、問題行動との関連を、社会的な関係性や文脈における相対的な位置づけを踏まえて扱う研究は多くない。問題行動は社会とのかかわりにおいて生じるため、Dark Triad/Tetrad の個人内過程のみに着目するのではなく、社会的関係性にに基づき、また、他の問題行動促進要因への着目を通して、相対的な位置づけを考慮する必要があると考えられる。

そこで、本ワークショップでは、Dark Triad/Tetrad と問題行動について、社会的文脈を踏まえた相対的な視点に基づく研究知見を紹介したい。具体的には、話題提供者1は、Dark Triad とパートナー暴力との関連に及ぼす嫉妬 (jealousy) の影響についての研究知見を紹介する。話題提供者2は、Dark Triad/Tetrad とネット荒らしとの関係性に及ぼす愛着スタイルの影響についての研究結果を報告する。話題提供者3は、攻撃性, 利他性, ソーシャルサポートの観点から、Dark Triad の高い人々に特徴的な対人プロフィールを示した結果を報告する。

社会的関係性の視点から問題行動を捉え、Dark Triad/Tetrad をはじめとするダークなパーソナリティに関する研究知見と統合することで、どのように社会に貢献し得るのかを議論していきたい。

## 01 Web発表

## 新型コロナウイルス1

- |     |  |   |   |
|-----|--|---|---|
| 101 | 新型コロナウイルス感染症のヘルスリテラシーの違いによる対象者セグメンテーション  | ○平井 啓<br>山村 麻子<br>加藤 舞<br>三浦 麻子             | 大阪大学<br>関西福祉科学大学・大阪大学<br>大阪大学<br>大阪大学     |
| 102 | 対人環境が子どもの反社会性の変化に及ぼす影響—COVID-19対策の長期自宅待機前後の縦断的検討—  | ○吉澤 寛之<br>松下 光次郎<br>笹竹 佑太<br>吉田 琢哉<br>浅野 良輔 | 岐阜大学<br>岐阜大学<br>岐阜大学<br>岐阜聖徳学園大学<br>久留米大学 |
| 103 | メディア利用と日本人意識 (4)<br>世の中の出来事・新型コロナウイルスの情報入手タイプと日本人意識の関係   | ○有馬 明恵<br>山下 玲子<br>藤井 達也<br>志岐 裕子           | 東京女子大学<br>東京経済大学<br>武蔵大学<br>慶應義塾大学        |
| 104 | メディア利用と日本人意識 (5)<br>新型コロナウイルスについて求める情報タイプと日本人意識の関係   | ○山下 玲子<br>有馬 明恵<br>藤井 達也<br>志岐 裕子           | 東京経済大学<br>東京女子大学<br>武蔵大学<br>慶應義塾大学        |
| 105 | メディア利用と日本人意識 (6)<br>新型コロナウイルス蔓延による日本人意識の変化の検討  | ○藤井 達也<br>有馬 明恵<br>山下 玲子<br>志岐 裕子           | 武蔵大学<br>東京女子大学<br>東京経済大学<br>慶應義塾大学        |
| 106 | 新型コロナウイルス感染拡大と投票参加<br>緊急事態宣言は投票率を引き下げたのか？  | ○岡田 陽介                                      | 拓殖大学                                      |
| 107 | 感染症脅威が第一子出産希望時期に及ぼす影響  | ○井上 裕珠<br>沼崎 誠                              | 日本大学<br>東京都立大学                            |
| 108 | 新型コロナウイルスの不安と倫理的消費   | ○泉水 清志                                      | 育英短期大学                                    |
| 109 | 新型コロナウイルス流行前へのなつかしさとなつかしさ特性<br>Personal Inventory of Nostalgic Experiences 日本版 (PINE-J) の開発と適用 | ○楠見 孝                                       | 京都大学                                      |
| 110 | COVID-19ワクチン接種の促進・阻害要因<br>第2回緊急事態宣言下におけるデータからの検討   | ○工藤 大介<br>李 楊                               | 東海学院大学<br>玉川大学                            |
| 111 | メディアへの信頼が新型コロナウイルス感染症リスク認知に与える影響   | ○中川 由理                                      | 京都橘大学                                     |
| 112 | 新型コロナウイルスへの感染対策の持続的実施とグリットの関係  | ○服部 陽介                                      | 大手前大学                                     |

## 02 Web発表

## 新型コロナウイルス2

201	マスク着用における利他的動機と主観的幸福感 日誌法調査による検討	○宮崎 弦太 坂本 優香 高橋 楓	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学
202	Cultural differences in adjustment and control during COVID-19	○Raphael Uricher Masataka Nakayama Yukiko Uchida	Kyoto University Kyoto University Kyoto University
203	非人間化傾向と不要不急の外出に対する態度との関連 —一般市民調査による検討—	○新井田 恵美 樋口 収	東洋大学 明治大学
204	新型コロナウイルスパンデミック状況下における感染脆弱意識 —2020年度以前の比較と生活史方略との関係の変化—	○沼崎 誠 中井 彩香 李 禱飛 朴 建映 松崎 圭佑	東京都立大学 東京都立大学 東京都立大学 東京都立大学 帝京大学
205	新型コロナ禍における外出・対人接触の規定因とその 変化 文化的自己観と職業に着目して	○辻 竜平	近畿大学
206	新型コロナワクチンの有効性の認知と外国人態度の関 係 —行動免疫システムの観点から—	○田戸岡 好香 石井 国雄 樋口 収	高崎経済大学 清泉女学院大学 明治大学
207	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の脅威 に伴う感染予防行動と外国人への排斥的態度の変 化（2） 2020年1月から2021年3月の12波パネル調査に基づ く検討	○山縣 芽生 寺口 司 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学 大阪大学
208	感染症症状に対する個人的・関係的幸福の効果 —パンデミック下の日米比較を通して—	○一言 英文	関西学院大学
209	COVID-19パンデミックがもたらす夫婦関係の再評価	○古村 健太郎 金政 祐司 浅野 良輔	弘前大学 追手門学院大学 久留米大学
210	新型コロナウイルス感染者とコロナ禍のリーダーに対す る態度に公正世界信念が及ぼす影響	○吉田 綾乃	東北福祉大学
211	チープなシグナルは人間社会でどう普及するか？ 飲食店の新型コロナ対策ステッカー制度を例にとって	○森 隆太郎 亀田 達也	東京大学 東京大学
212	規範遵守行動の成立における他者の行動と選好の推 測の影響 COVID-19流行に伴うマスク着用行動に注目して	○渡壁 政仁 仲間 大輔 村本 由紀子	東京大学 東京大学・リクルートマネジメントソリューションズ 東京大学
213	行動免疫は内外集団への態度を予測するか 日本、中国、米国、英国、伊国でのWeb調査から	○平石 界 三浦 麻子 中西 大輔 Andrea Ortolani 三船 恒裕 李 楊	慶應義塾大学 大阪大学 広島修道大学 立教大学 高知工科大学 名古屋大学

## 03 Web発表

## 自己

- |     |  |                         |   |
|-----|--|-------------------------|---|
| 301 | テキストマイニング法による住環境評価基準の分析                                      | ○澤田 奈々実                 | 早稲田大学   |
| 302 | 公募型 Web 調査における特性的自己効力感尺度の妥当性 (1)<br>—成人対象調査を用いた構造的側面の検討—     | ○山田 一成<br>藤島 喜嗣         | 東洋大学<br>昭和女子大学  |
| 303 | 公募型 Web 調査における特性的自己効力感尺度の妥当性 (2)<br>人生満足感ならびにビッグファイブ特性との関連   | ○藤島 喜嗣<br>山田 一成         | 昭和女子大学<br>東洋大学  |
| 304 | オタクの趣味開示傾向と学生時代の地位の関連<br>クラスター分析を用いた検討                       | ○田島 綾乃<br>稲増 一憲         | 関西学院大学<br>関西学院大学  |
| 305 | 着装における『なりたい自分・なりたくない自分』<br>—被服行動と友人関係との関連—                   | ○乾 眞理子<br>森下 正修         | 倉敷市立短期大学<br>京都府立大学                                      |
| 306 | 2つのセルフモニタリング尺度の比較検討の試み                                       | ○遠藤 健治                  | 青山学院大学  |
| 307 | パーソナリティの認知過程 (10)<br>—パーソナリティ理解と使用根拠との関連—                    | ○岩熊 史朗                  | 駿河台大学   |
| 308 | 過剰適応傾向の高い人々が持つ反応バイアス   | ○松本 良恵<br>加納 啓太<br>神 信人 | 西南学院大学・玉川大学<br>淑徳大学<br>淑徳大学                             |
| 309 | グリットを潜在的に測定するST-IAT-Gritの再検査信頼性                              | ○稲垣 勉<br>澤海 崇文<br>澄川 采加 | 京都外国語大学・教育テスト研究センター (CRET)<br>流通経済大学・CRET<br>泉台小学校・CRET |
| 310 | 健康リスク情報が対人的資源の利用可能性認知に及ぼす影響<br>スマートフォンの過剰使用に関する健康リスク情報を用いた検討 | ○下田 俊介<br>下田 麻衣         | 東洋大学<br>立正大学  |

## 04 Web発表

## 感情・パーソナリティ

- |     |   |                                   |                                  |
|-----|---|-----------------------------------|----------------------------------|
| 401 | 意思決定場面における身体知覚変化の測定<br>—改訂版 APQを用いた主観的身体変化尺度の開発—      | ○杉浦 秀一                            | 神戸大学                             |
| 402 | 子供が仲間はずれにされている際のこころの痛み<br>母親を対象としたfMRI実験による検証         | ○柳澤 邦昭<br>中井 隆介<br>浅野 孝平<br>阿部 修士 | 神戸大学<br>京都大学<br>大阪総合保育大学<br>京都大学 |
| 403 | パーソナリティ特性とSNS利用がアンチファン心理に及ぼす影響 (1)<br>重回帰分析による検討      | ○向居 暁                             | 県立広島大学                           |
| 404 | 自他への思いやりの高い人は人形に刺す針の数が少ない<br>対人目標, セルフコンパッション, 攻撃性の関連 | ○宮川 裕基<br>谷口 淳一                   | 追手門学院大学<br>帝塚山大学                 |
| 405 | ストレス度別ライフイベントにおけるユーモアコーピングの心理的 Well-being への影響        | ○本郷 亜維子                           | 放送大学                             |
| 406 | 道徳ジレンマにおけるモラルライセンシング効果の検討                             | ○古川 善也                            | 広島大学                             |
| 407 | 小学校高学年児童の認知する向社会的動機づけ                                 | ○山本 琢俣<br>上淵 寿                    | 早稲田大学・日本学術振興会<br>早稲田大学           |
| 408 | 思春期世代における向社会行動の特徴                                     | ○寿 秋露<br>山田 順子<br>松田 哲也<br>高岸 治人  | 玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学     |
| 409 | 関係流動性が思春期世代の脳機能・脳構造に与える影響                             | ○山田 順子<br>寿 秋露<br>松田 哲也<br>高岸 治人  | 玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学     |
| 410 | 歩くことの社会心理学 (1)<br>散歩と精神的回復力                           | ○岡本 卓也                            | 信州大学                             |

## 05 Web発表

## 社会的認知

- |     |  |   |   |
|-----|--|---|---|
| 501 | 社会的排斥の目撃は自身が排斥される可能性の知覚を高める  | ○津村 健太                                    | 帝京大学                                      |
| 502 | 大学生の幸福感を高めることは可能か<br>ポジティブ単語を用いたプライミングによるアプローチ                                 | ○井原 嘉之<br>外山 みどり                          | 東京大学<br>学習院大学                             |
| 503 | Sampling networks for learning networks<br>A dynamic relational event approach | ○Tasuku Igarashi                          | Nagoya University                         |
| 504 | 経済状況が子どもを希望する数に及ぼす影響<br>一般市民調査の結果  | ○樋口 収<br>新井田 恵美                           | 明治大学<br>東洋大学                              |
| 505 | アジア訛りの英語非母語話者に対するイメージ<br>—聞き手の違いに注目して—   | ○田村 美恵<br>大阪 未来                           | 神戸市外国語大学<br>(株)星野リゾート                     |
| 506 | 「自他の重ね合わせ」は脳に表現されているか：<br>現象学と脳機能イメージングによる学際的検討                                | ○本間 祥吾<br>山縣 豊樹<br>小川 健二<br>田口 茂<br>竹澤 正哲 | 北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学 |
| 507 | 死の脅威が高齢者に対する態度に与える影響の年齢<br>による違い   | ○竹内 真純<br>片桐 恵子                           | 神戸大学・日本学術振興会<br>神戸大学                      |
| 508 | 「運の強い」人は、対人的な「幸運」にも恵まれているのか？<br>—「幸運のネットワーク仮説」に関する検証—                          | ○村上 幸史                                    | 関西国際大学                                    |
| 509 | 説明内容のもっともらしさが実在性認知に及ぼす影響   | ○菅 さやか<br>太幡 直也<br>宮本 聡介                  | 慶応義塾大学<br>愛知学院大学<br>明治学院大学                |
| 510 | 人工知能の判断が生む差別と不公正認知   | ○谷辺 哲史<br>唐沢 かおり                          | 東京大学<br>東京大学                              |
| 511 | インクルーシブ教育に対する一般教諭の有益さ認識に<br>関する分析  | ○前田 楓<br>橋本 博文                            | 大阪市立大学<br>大阪市立大学                          |

## 06 Web発表

## 対人関係1

601	社会的スキルが意見の異なる相手との協調的行動に及ぼす影響	○石川 真	上越教育大学
602	親密性および尊敬感情とユーモア表出形態との関連について —攻撃的ユーモア表出に注目して—	○井上 悟 水野 邦夫	帝塚山大学 帝塚山大学
603	日常生活場面における他者操作方略の影響の再検討 (1) —依頼なし統制条件の設定—	○木川 智美 今城 周造	昭和女子大学 昭和女子大学
604	被援助者人数が援助意図に及ぼす影響	○ハン ショウグン 田中 知恵 藤浪 遼太郎	明治学院大学 明治学院大学 明治学院大学
605	最後通牒ゲームにおける分配行動に第三者の存在が与える影響	○越智 宏朗 小杉 考司	専修大学 専修大学
606	儀礼的感謝行動と対人関係の良好さの認知との関連 社会人を対象とした検討	○渡部 麻美	東洋英和女学院大学
607	愛想というコミュニケーション・スタイル尺度の作成	○伊藤 倫	名古屋大学
608	「一対多」状況での他者理解が正確なのは誰か 社会経済的地位と批判的思考に着目した実験的検討	○中島 健一郎	広島大学
609	リレー小説における感情表現に及ぼすサイコパシー特性とPDゲーム指標の影響	○安念 保昌	愛知みずほ大学
610	保有資源の格差と原因が協力行動に与える影響 —公共財ゲームを用いた検討—	○中井 彩香 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
611	ポジティブな「状況」に関する研究 (3) ポジティブな「状況」で行われる行動に関する検討	○堀毛 一也 堀毛 裕子	東洋大学 東北学院大学

## 07 Web発表

## 対人関係2

- |     |  |                                  |                                   |
|-----|--|----------------------------------|-----------------------------------|
| 701 | 向社会的な嘘が信頼に及ぼす影響<br>相手との関係性に注目して  | ○達 棕介<br>加藤 樹里                   | 金沢工業大学<br>金沢工業大学                  |
| 702 | 患者および家族の視点における望ましい看護師の対応   | ○高井 範子                           | 大阪行岡医療大学                          |
| 703 | 映像教材を用いた就労適応スキルトレーニング v-ILT-AD の効果性  | ○藤本 学                            | 立命館大学                             |
| 704 | 援助規範の顕現化は利己的動機の推測を抑制するか (1)<br>人命救助場面での検討  | ○山本 佳祐<br>池上 知子                  | 大阪市立大学<br>甲南大学                    |
| 705 | 単身者における店員との会話と孤独感の関連の検討<br>Service Providerとの最小相互作用の役割   | ○稲増 一憲<br>岡 佑美                   | 関西学院大学<br>(株)東京エレクトロン             |
| 706 | ゆるせなさの規定因に関する探索的検討 (1)<br>—人生における重要度と転機の観点から—  | ○沼田 真美<br>小浜 駿                   | 目白大学<br>宇都宮共和大学                   |
| 707 | ゆるせなさの規定因に関する探索的検討 (2)<br>傷つきを低減する取り組みの構造  | ○小浜 駿<br>沼田 真美                   | 宇都宮共和大学<br>目白大学                   |
| 708 | Test of Nonverbal Cue Knowledge-II (TONCK-II) の<br>妥当性検討<br>TONCK, 認知能力, 解読力に関する自己評定との関<br>連から | ○小川 一美<br>Judith A. Hall         | 愛知淑徳大学<br>Northeastern University |
| 709 | 送り手の集団成員性が受け手の感情共有や関係性の<br>知覚に及ぼす影響  | ○田中 知恵<br>小森 めぐみ                 | 明治学院大学<br>淑徳大学                    |
| 710 | 絵画における説明文が物語性の知覚に及ぼす影響   | ○福田 怜生                           | 学習院大学                             |
| 711 | 信頼性判断に及ぼす信頼感と猜疑心の影響の差異<br>—状況限定的な信頼感と状況に依存しない猜疑心—  | ○滝口 雄太<br>蘇 雨青<br>山口 雄人<br>桐生 正幸 | 東洋大学<br>東洋大学<br>東洋大学<br>東洋大学      |
| 712 | 社会的比較と心理的自立との関連<br>—比較の内容と方向性の観点からの検討—   | ○吉田 琢哉                           | 岐阜聖徳学園大学                          |



## 08 Web発表

## 帰属・ステレオタイプ

- |     |   |  |                                      |
|-----|---|--|--------------------------------------|
| 801 | 「あなたが抱く高齢者偏見は、あなたの将来に悪影響をもたらす」<br>ステレオタイプ・エンボディメント理論を活用した高齢者偏見の軽減 | ○清水 佑輔<br>橋本 剛明<br>唐沢 かおり                  | 東京大学<br>東洋大学<br>東京大学                 |
| 802 | 競争課題において人工知能に負けたとき、人はどのような原因帰属を行うのか                               | ○横井 良典<br>中谷内 一也                           | 同志社大学・日本学術振興会<br>同志社大学               |
| 803 | Dark Triadと孤独感が社会階層の低い人へのスティグマ的態度に及ぼす影響                           | ○増井 啓太                                     | 追手門学院大学                              |
| 804 | 一人称視点が自動車交通場面における責任帰属に及ぼす影響                                       | ○加藤 仁                                      | 北陸学院大学                               |
| 805 | 相補的ステレオタイプの機能<br>県民性ステレオタイプを用いた研究                                 | ○佐久間 勲                                     | 文教大学                                 |
| 806 | 自己観と精神症状の原因帰属   | ○中山 真孝<br>畑中 千紘<br>鈴木 優佳<br>粉川 尚枝<br>河合 俊雄 | 京都大学<br>京都大学<br>京都大学<br>京都大学<br>京都大学 |
| 807 | 障害者に対する潜在的態度・ステレオタイプ  | ○柳田 航<br>村田 光二                             | 名古屋大学<br>成城大学                        |
| 808 | 恋人がいない人への否定的な評価は規範からの逸脱によるものか<br>評価者の伝統志向性と被評価者の意図性に注目して          | ○高田 咲季<br>後藤 崇志                            | 滋賀県立大学<br>滋賀県立大学                     |
| 809 | 遺伝子への原因帰属が社会的排斥に与える影響<br>異質性の認知に着目して                              | ○苦米地 飛<br>唐沢 かおり                           | 東京大学<br>東京大学                         |
| 810 | 身体的魅力がインポスター現象の経験に及ぼす影響   | ○須藤 美佳<br>石黒 格                             | 立教大学<br>立教大学                         |

## 09 Web発表

## 態度・信念

- |     |   |                                   |  |
|-----|---|-----------------------------------|--|
| 901 | 正義態度尺度作成の試み   | ○北折 充隆<br>吉武 久美                   | 金城学院大学<br>人間環境大学   |
| 902 | 潜在的スポーツ・運動観の規定因の探索的検討<br>簡易版潜在連合テストを用いて                     | ○大橋 恵<br>澤海 崇文<br>藤後 悦子<br>井梅 由美子 | 東京未来大学<br>流通経済大学<br>東京未来大学<br>東京未来大学                                       |
| 903 | 養育者の成長マインドセットと子への教育投資意図の関<br>係<br>どのような子どもの大学進学を支援しようとするのか？ | ○竹橋 洋毅<br>高 史明<br>尾崎 由佳<br>雨宮 有里  | 奈良女子大学<br>神奈川大学<br>東洋大学<br>神奈川大学   |
| 904 | 所得格差に対する多元的正当化と従業上の地位との関<br>連の検討                            | ○川嶋 伸佳                            | 神奈川大学  |
| 905 | 2つの日本語版自由意志・決定論信念尺度の心理測<br>定的特徴の比較                          | ○後藤 崇志                            | 滋賀県立大学   |
| 906 | 日本におけるRWAとスピリチュアリティの関係                                      | ○高野 了太<br>野村 理朗                   | 京都大学・日本学術振興会<br>京都大学   |
| 907 | 情報処理スタイルとホットハンドの誤信の関連                                       | ○安部 健太                            | 帝京大学   |
| 908 | 就業前の行動の意識化は経験学習を促進するか                                       | ○今城 志保<br>藤村 直子<br>佐藤 裕子          | (株)リクルートマネジメントソリューションズ<br>(株)リクルートマネジメントソリューションズ<br>(株)リクルートマネジメントソリューションズ |
| 909 | 長期的な説得における態度の時系列変化①<br>—2020年大阪都構想における住民投票を事例とした検<br>討—     | ○中村 早希<br>稲増 一憲<br>三浦 麻子          | 帝塚山学院大学<br>関西学院大学<br>大阪大学  |
| 910 | 分配の正義への社会的価値関数アプローチ   | ○清水 裕士                            | 関西学院大学   |

## 10 Web発表

## 援助・攻撃

1001	パノイアと危害的意図の推測 先制攻撃ゲームを用いた検討	○堀田 結孝	帝京大学
1002	判決文から探る親密な関係者間暴力の凶悪化要因 判別分析による検討	○常岡 充子 島田 貴仁 高橋 玲央 小川 時洋	科学警察研究所 科学警察研究所 科学警察研究所 科学警察研究所
1003	成人期における共感と被害的認知, 関係性攻撃の関 係	○品田 瑞穂	東京学芸大学
1004	日本人に適応的な援助要請スタイルとは 性差とシャイネスの観点を含めて	○橋本 剛 栗林 克匡	静岡大学 北星学園大学
1005	お節介だと批判されても援助して良かったと思える心理 プロセス 思いやり目標と非ゼロサム的な時間の捉え方	○新谷 優 Syamil Yakin	法政大学 オハイオ州立大学
1006	「攻撃」に関するプライミングが自動的な社会的行動に 与える影響 —生態学的要因に注目した検討—	○李 禕飛 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
1007	Simulation of the absence of cost enhances perceived helpers' cost.	○古橋 健悟 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
1008	反応的攻撃を予測する数理モデルの検討	○吉富 広之 源 健宏	北海道大学 島根大学
1009	消防職員の被災地ボランティア活動が被災地の復興に 与える影響の探索的検討	○秋本 陽子 松井 豊	東京消防庁 筑波大学
1010	援助提供者との親密さが感謝に及ぼす影響	○森 久美子	関西学院大学

## 11 Web発表

## 身近な人間関係

- |      |   |                                 |  |
|------|---|---------------------------------|--|
| 1101 | 愛着不安傾向が身体的攻撃に至るプロセス<br>一般化可能性の検討                          | ○謝 新宇<br>古川 善也<br>中島 健一郎        | 広島大学<br>広島大学<br>広島大学                             |
| 1102 | 最高のパートナーとして選ばれるのは誰か<br>利益最大化戦略と配偶者選択                      | ○石黒 格                           | 立教大学   |
| 1103 | 父親の量的関わりが大学生の自尊心に与える影響                                    | ○玉宮 義之<br>小貫 胤羽                 | 白鷗大学<br>上越教育大学                                   |
| 1104 | 社会的閉塞感と両親の夫婦関係が若者の恋愛離れに<br>及ぼす影響                          | ○山下 倫実                          | 十文字学園女子大学  |
| 1105 | 同級生との友人関係の形成を支援する新入生プログラ<br>ム<br>オンラインツールを用いたグループワークの効果   | ○谷田 林士<br>嶋田 咲良                 | 大正大学   |
| 1106 | サイバーボール課題中の心臓血管反応の検討                                      | ○伊崎 翼<br>石井 圭<br>浅原 亮太<br>小峰 秀彦 | 産業技術総合研究所<br>産業技術総合研究所<br>産業技術総合研究所<br>産業技術総合研究所 |
| 1107 | 中学生の娘から母親への親密性と制御適合 (2)                                   | ○田淵 恵                           | 安田女子大学   |
| 1108 | 恋愛関係破綻後のストーカー的行為を予測する関係性<br>要因<br>恋愛関係についての前向き調査から        | ○金政 祐司<br>荒井 崇史                 | 追手門学院大学<br>東北大学                                  |
| 1109 | 婚活における異性の選別に利用される情報の検討<br>プロフィール項目といいね獲得数に対する重要度評価<br>の性差 | ○天野 陽一                          | 東京都立大学   |
| 1110 | 母親の養育スタイルと対人特性の関連   | ○橋本 泰央<br>小塩 真司                 | 帝京短期大学<br>早稲田大学                                  |

## 12 Web発表

## 集団1

- |      |   |                                     |   |
|------|---|-------------------------------------|---|
| 1201 | 集団内における地位と特権意識が集団規範継承志向性に及ぼす影響                          | ○尾関 美喜                              | 岡山大学  |
| 1202 | 信頼は集団レベルで規範に変化する—地域コミュニティ調査データに対するマルチレベル分析—             | ○福島 慎太郎<br>竹村 幸祐<br>内田 由紀子<br>河村 悠太 | 東京女子大学<br>滋賀大学<br>京都大学<br>大阪府立大学                  |
| 1203 | ヒト集団サイズの認知的上限としてのダンバー数 Dunbar (1992) の再分析               | ○平島 太郎                              | 愛知淑徳大学  |
| 1204 | 集団にとらわれない協力行動がもたらす評判<br>集団主義者・普遍主義者の評判比較研究              | ○館石 和香葉<br>橋本 博文<br>高橋 伸幸           | 北海道大学・日本学術振興会<br>大阪市立大学<br>北海道大学                  |
| 1205 | 実行機能と自己制御は集団パフォーマンスを予測するか<br>メンバーのIQを統制した検討             | ○原田 知佳<br>土屋 耕治<br>森口 佑介            | 名城大学<br>南山大学<br>京都大学                              |
| 1206 | 外集団脅威への適応と互惠関係の維持のどちらが重要か?<br>集団目的に依存する内集団ひいきの心理メカニズム   | ○中川 裕美<br>横田 晋大<br>中西 大輔            | 東北福祉大学<br>広島修道大学<br>広島修道大学                        |
| 1207 | メンバーシップの流動性と能力格差が職場の協調に及ぼす影響                            | ○仲間 大輔<br>村本 由紀子                    | 東京大学・リクルートマネジメントソリューションズ<br>東京大学                  |
| 1208 | 大学入学前後の複数グループメンバーシップの維持がメンタルヘルスに与える影響<br>横断的および縦断的影響の検討 | ○後藤 伸彦<br>三好 智子<br>藤川 洋子            | 京都ノートルダム女子大学<br>京都ノートルダム女子大学・京都工芸繊維大学<br>京都工芸繊維大学 |
| 1209 | 繰り返し社会的ジレンマゲームにおける協力率の推移を説明するモデルの構築                     | ○水野 景子<br>清水 裕士                     | 関西学院大学<br>関西学院大学                                  |

## 13 Web発表

## 集団2

- |      |   |                          |                              |
|------|---|--------------------------|------------------------------|
| 1301 | 自信のないメンバーの投票による多数決の精度の低下  | ○黒田 起吏<br>高橋 茉優<br>亀田 達也 | 東京大学・日本学術振興会<br>東京大学<br>東京大学 |
| 1302 | 集団間関係における理解知覚の役割に関する間接的<br>追試<br>日本人と在日中国人の関係による検討                            | ○井奥 智大<br>綿村 英一郎         | 大阪大学<br>大阪大学                 |
| 1303 | 社会的影響の移動モデル   | ○高木 英至                   | 埼玉大学                         |
| 1304 | 代理報復における集団間三角関係が報復抑制に与える<br>効果  | ○熊谷 智博                   | 法政大学                         |
| 1305 | 上司の公正性がチームの心理的安全性およびコミットメ<br>ントに与える効果<br>マルチレベル構造方程式モデリングによる検討                | ○繁樹 江里<br>山口 裕幸          | 青山学院大学<br>九州大学               |
| 1306 | 発言抑制の多元的無知に関する検討  | ○岩田 和也<br>鬼頭 美江          | 九州大学<br>明治学院大学               |
| 1307 | 親同士の友人グループに対する意識の因子構造と呼<br>称の影響の検討  | ○塚常 健太<br>大戸 朋子          | 東京都立大学<br>北陸先端科学技術大学院大学      |
| 1308 | 「みんな」とは何割か<br>項目反応理論を用いた記述的規範の閾値の推定   | ○尾崎 拓                    | 関西福祉科学大学                     |
| 1309 | 隠れたプロフィールを見つけ出すための話し合い方と<br>は？<br>集団討議場面における情報価への注目の違いが集団<br>意思決定及び個人選好に与える影響 | ○松村 楓<br>橋本 博文           | 大阪市立大学<br>大阪市立大学             |
| 1310 | Best 尺度法による反移民的態度尺度作成と分布推定  | ○柏原 宗一郎<br>清水 裕士         | 関西学院大学<br>関西学院大学             |

## 14 Web発表

## 社会的交換

- |      |  |                                    |  |
|------|--|------------------------------------|--|
| 1401 | 集団内の仕事分担の理想と現実<br>非対称ボランティアのジレンマゲームを用いた検討      | ○ターン 有加里ジェシカ<br>橋本 剛明<br>唐沢 かおり    | 東京大学・日本学術振興会<br>東洋大学<br>東京大学             |
| 1402 | 将来世代への利他行動に対する同世代他者からの評価                       | ○井上 裕香子<br>三船 恒裕<br>西條 辰義          | 高知工科大学<br>高知工科大学<br>高知工科大学               |
| 1403 | 格差是正と再分配意思決定に関する実験的検討                          | ○高橋 茉優<br>黒田 起吏<br>亀田 達也           | 東京大学<br>東京大学・日本学術振興会<br>東京大学             |
| 1404 | 多数派同調は協力の進化を促進するか<br>—2つの規範及び規範内面化形質がもたらす相互作用— | ○貴堂 雄太<br>竹澤 正哲                    | 北海道大学<br>北海道大学                           |
| 1405 | 速い協力者は遅い協力者よりも好まれるか<br>協力の意思決定時間と受ける評価の関連の検討   | ○水鳥 翔伍<br>鎧石 和香葉<br>一條 航平<br>高橋 伸幸 | 北海道大学<br>北海道大学・日本学術振興会<br>北海道大学<br>北海道大学 |
| 1406 | アップストリーム互恵性の規定因<br>搾取という側面からの検討                | ○梅谷 凌平<br>後藤 晶<br>岡田 勇<br>山本 仁志    | 筑波大学<br>明治大学<br>創価大学<br>立正大学             |
| 1407 | 思春期世代の向社会性を支える脳機能・脳構造                          | ○高岸 治人<br>寿 秋露<br>山田 順子<br>松田 哲也   | 玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学<br>玉川大学             |
| 1408 | 一回限りの状況における向社会行動の計算過程とその神経基盤                   | ○田中 大貴<br>宮崎 淳<br>高岸 治人<br>松田 哲也   | 玉川大学・日本学術振興会<br>早稲田大学<br>玉川大学<br>玉川大学    |
| 1409 | 集団に有益な戦略の文化進化：<br>文化的集団淘汰の実験的検討                | ○阿部 紗采<br>土田 修平<br>竹澤 正哲           | 北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学                  |

## 15 Web発表

## インターネット・SNS

- |      |   |                                      |                                       |
|------|---|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1501 | オンラインで実施した大学生のチームワーク能力を向上させるトレーニングの有効性  | ○太幡 直也                               | 愛知学院大学                                |
| 1502 | パネルサンプルプロバイダーを利用したWeb調査の回答者の特徴とSatisficingの現状                                 | ○三浦 麻子<br>小林 哲郎                      | 大阪大学<br>香港城市大学                        |
| 1503 | ドラマ視聴者のTwitter利用の様相<br>番組に関するリアルタイム・ツイートの分析報告                                 | ○志岐 裕子                               | 慶應義塾大学                                |
| 1504 | 高齢者の情報通信技術利用に対するソーシャルサポートの有効性   | ○北村 智                                | 東京経済大学                                |
| 1505 | 口コミサイト内でのレビュー評価の程度によって記述される内容の違いはあるのか？<br>—「ダイエットカフェ」の口コミデータを用いた検討—           | ○西村 太志                               | 広島国際大学                                |
| 1506 | SNS上での誹謗・中傷行動に関与する心理要因に関する調査研究  | ○小俣 謙二                               | 駿河台大学                                 |
| 1507 | 自記式調査におけるアイトラッキングによる回答行動の分析<br>—Web調査用質問画面での多肢選択法の場合—                         | ○浅川 雅美<br>岡野 雅雄<br>林 英夫              | 文教大学<br>文教大学<br>(医)豊明会                |
| 1508 | フェイクニュースの警告タグはSNS上においても有効なのか<br>—一般人を対象とした実験から—                               | ○陳 晗<br>竇 雪                          | 立命館大学<br>立命館大学                        |
| 1509 | 低年齢の子どものインターネットに対する理解の発達的変化の検討(3)<br>学齢・性別・インターネットの利用時間とインターネットの存在と仕組みの理解との関連 | ○松尾 由美<br>田島 祥<br>鄭 姝<br>坂元 章        | 江戸川大学<br>東海大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学 |
| 1510 | 低年齢の子どものインターネット利用に対する保護者の介入行動<br>積極的介入行動と保護者及び子どもの属性との関連                      | ○田島 祥<br>松尾 由美<br>鄭 姝<br>坂元 章        | 東海大学<br>江戸川大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学 |
| 1511 | SNS上の拒絶・受容状況における安心さがし行動の生起過程の検討<br>—低自尊心者はどのような状況で安心さがしツイートするのか—              | ○長谷川 孝治<br>古里 由香里<br>古谷 嘉一郎<br>佐藤 広英 | 駒澤大学<br>立教大学<br>北海学園大学<br>信州大学        |



## 16 Web発表

## 政治・マスコミュニケーション

1601	分配的正義の評価基準にパーソナリティ、社会的態度、感情が及ぼす影響	○平野 浩	学習院大学
1602	社会調査データからみる低所得層の政治参加と自民党支持： JGSS・CSESデータの二次分析による検討	○中越 みずき 稲増 一憲	関西学院大学 関西学院大学
1603	自由を含む道徳基盤と政治的イデオロギーの関連	○藤村 まこと 縄田 健悟 大賀 哲 宮島 健	福岡女学院大学 福岡大学 九州大学 福岡女学院大学
1604	報道における偏向性知覚の影響（1） —メディアシニシズムの誘発—	○李 光鎬 李 津娥 正木 誠子	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
1605	報道における偏向性知覚の影響（2） —「メディア影響の推定効果」・「第三者効果」との関連—	○正木 誠子 李 光鎬 李 津娥	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
1606	報道における偏向性知覚の影響（3） —アドボカシー意向の促進—	○李 津娥 李 光鎬 正木 誠子	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
1607	有権者はどのように政治的有効性感覚を形成するのか 縦断データを用いた内的有効性感覚と外的有効性感覚の相互作用の検証	○岡田 葦生	京都大学
1608	政治参加と内集団・外集団に対する感情温度 感情的極性化の視点から	○小林 哲郎	香港城市大学
1609	CMの登場人物の顔への注目 —購買態度の情緒性による違い—	○岡野 雅雄 浅川 雅美	文教大学 文教大学
1610	若年層の先端科学技術に関する知識、イメージと情報接触メディア	○鈴木 万希枝	東京工科大学
1611	若年層有権者の投票行動を規定する諸要因 間接民主制に対する信頼感は投票行動を規定するか？	○大西 健太 越智 啓太 稲葉 哲郎	一橋大学 法政大学 一橋大学
1612	新聞ラベルによる敵対的メディア認知の検証	○竹本 圭佑	藍野大学

## 17 Web発表

## 文化

- |      |   |  |   |
|------|---|--|---|
| 1701 | 日本人は何を変えたくないのか<br>—社会変化の受容に関する国際比較—   | ○村山 綾<br>三浦 麻子                                     | 近畿大学<br>大阪大学  |
| 1702 | The Effects of Rice Cultivation Style on People's Psychological Tendencies :<br>Comparing North and South Vietnam | ○Akari Jin<br>Masaki Yuki<br>Thomas Talhelm        | Hokkaido University<br>Hokkaido University<br>University of Chicago |
| 1703 | 引っ越し経験が人物評価に及ぼす影響<br>温かさと有能性に着目して   | ○方 予辰<br>布井 雅人<br>小宮 あすか                           | 広島大学<br>椋山女学園大学<br>広島大学   |
| 1704 | 都市度と主観的幸福感の関連<br>—全国代表サンプルによる日米比較検討—  | ○浅野 良輔<br>伊藤 健一<br>一言 英文                           | 久留米大学<br>Nanyang Technological University<br>関西学院大学                 |
| 1705 | 暗黙理論と教育制度における課題変更の困難さが学業パフォーマンスに与える影響   | ○鈴木 啓太<br>渡邊 万祐子<br>村本 由紀子                         | 東京大学・日本学術振興会<br>東京大学<br>東京大学  |
| 1706 | 教育の長さや課題の難易度が累積的文化進化に与える影響  | ○中田 星矢<br>竹澤 正哲                                    | 北海道大学・日本学術振興会<br>北海道大学  |
| 1707 | 文化的自己観を支える安静時機能結合   | ○李 述冰<br>山田 順子<br>村山 美穂<br>高橋 英彦<br>松田 哲也<br>高岸 治人 | 玉川大学<br>玉川大学<br>京都大学<br>東京医科歯科大学<br>玉川大学<br>玉川大学                    |
| 1708 | 「やさしさ」がもたらす印象評価に関する探索的検討<br>治療的やさしさと予防的やさしさの弁別  | ○山崎 梨花子<br>橋本 博文                                   | 安田女子大学<br>大阪市立大学  |
| 1709 | 対人葛藤における解決方略と目標達成に関する日中比較<br>大学生の質問紙調査を基に   | ○林 萍萍<br>費 余君<br>米谷 淳                              | 神戸大学<br>神戸大学  |
| 1710 | ため込みとアニミズム：日米比較研究   | ○石井 敬子<br>大石 繁宏                                    | 名古屋大学<br>ヴァージニア大学   |
| 1711 | 日本人と中国人はおしゃべりでいかに関わるのか？<br>—日本人学生と中国人留学生による情緒志向的会話の実験的検討—   | ○木村 昌紀<br>毛 新華<br>小林 知博                            | 神戸女学院大学<br>神戸学院大学<br>神戸女学院大学  |

## 18 Web発表

## 社会問題

1801	セルフコントロールが大学教育に果たす役割 学びの価値とコストから	○安達 未来 安達 啓介	大阪電気通信大学 神戸学院大学
1802	誰がなぜ苦情・クレームを訴えるのか カスタマーハラスメントの実態把握と行為者の類型化の 試み	○池内 裕美	関西大学
1803	なぜ被体罰経験者は体罰を容認するのか 被体罰経験に対する感謝感情に焦点を当てた検討	○久保 昂大 杉山 佳生	九州大学 九州大学
1804	チャリティショップにおける不用品寄付とリユース品購入 の個人的規範の規定因	○前田 洋枝 渡邊 聡	南山大学 愛知淑徳大学
1805	地域共同体における景観的な特徴と住民意識との対応 の検討 Google Street View 画像と社会調査を用いて	○打田 篤彦 伊勢 武史 箕浦 有希久 一言 英文 竹村 幸祐 内田 由紀子	京都大学 京都大学 佛教大学 関西学院大学 滋賀大学 京都大学
1806	目の写真による監視が不正の抑制に及ぼす影響	○前田 洋光 平田 葉月	京都橘大学 京都橘大学
1807	寄付行動の世代差に関する検討	○中島 誠	名古屋学院大学
1808	移動パターンによる移住者の地域選択要因と適応度の 比較	○加藤 潤三 前村 奈央佳	立命館大学 神戸市外国語大学
1809	「移動志向性」の測定と国内移動パターンによる比較	○前村 奈央佳 加藤 潤三	神戸市外国語大学 立命館大学
1810	社会問題としての「いじめ」とその変質 新聞記事分析からみた揺らぎと2010年代の変化	○ハッ塚 一郎	熊本大学

## 19 Web発表

## ジェンダー・ダイバーシティ

- |      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 1901 | 運動/スポーツ場面におけるロボットジェンダー選好<br>ジェンダー平等志向との関連              | ○鈴木 公啓<br>野村 竜也  | 東京未来大学<br>龍谷大学   |
| 1902 | テレビ視聴と性差別意識との関係<br>メディア表現のダイバーシティと態度 (1)               | ○麻生 奈央子<br>渋谷 明子<br>大坪 寛子<br>坂元 章<br>祥雲 暁代<br>大倉 韻<br>林 志修 | お茶の水女子大学<br>成城大学<br>慶応義塾大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学<br>東京医科歯科大学<br>獨協大学 |
| 1903 | 性的マイノリティに対する態度とテレビでの間接接触との関係<br>メディア表現のダイバーシティと態度 (2)  | ○大坪 寛子<br>渋谷 明子<br>麻生 奈央子<br>坂元 章<br>祥雲 暁代<br>大倉 韻<br>林 志修 | 慶應義塾大学<br>成城大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学<br>東京医科歯科大学<br>獨協大学 |
| 1904 | ドラマやアニメへの接触と外国出身者への態度<br>メディア表現のダイバーシティと態度 (3)         | ○渋谷 明子<br>大坪 寛子<br>麻生 奈央子<br>祥雲 暁代<br>坂元 章<br>大倉 韻<br>林 志修 | 成城大学<br>慶應義塾大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学<br>お茶の水女子大学<br>東京医科歯科大学<br>獨協大学 |
| 1905 | 道徳基盤理論に基づいた選択的夫婦別姓制度への態度分析<br>Twitter投稿の計量テキスト分析       | ○樋口 浩一   | 放送大学   |
| 1906 | 日本語版 Career Aspiration Scale-Revised (J-CASR)<br>の作成   | ○川原 瞳<br>橋本 剛明<br>唐沢 かおり                                   | 東京大学<br>東洋大学<br>東京大学   |
| 1907 | 自己モノ化が潜在的自己ステレオタイプ化に及ぼす影響<br>—IATを用いたジェンダーステレオタイプ化の検討— | ○朴 建映<br>沼崎 誠  | 東京都立大学<br>東京都立大学   |
| 1908 | FTMとMTFに対するイメージ尺度の開発                                   | ○陳 曦<br>守谷 順<br>脇田 貴文                                      | 関西大学<br>関西大学<br>関西大学   |
| 1909 | リーダー経験の結果の原因帰属とリーダーシップ自己<br>効力感との関連の検討                 | ○山口 彩菜<br>坂田 桐子  | 広島大学<br>広島大学   |
| 1910 | ピンクと青に関する潜在的ジェンダー・ステレオタイプ<br>の検討                       | ○石井 国雄<br>田戸岡 好香   | 清泉女学院大学<br>高崎経済大学  |
| 1911 | キャラの性別とレイヤーの意識   | ○渡邊 寛<br>石川 莉緒<br>本多ハワード 素子                                | 昭和女子大学<br>昭和女子大学<br>昭和女子大学   |

- 1912 リーダーのジェンダーと行動がリーダー評価に与える影 〇藤浪 遼太郎 明治学院大学  
響 田中 知恵 明治学院大学  
— 広告刺激を用いた実験的検討 —

## 20 Web発表

## 安全・防災

- |      |  |   |   |
|------|--|---|---|
| 2001 | 分散避難が避難行動に及ぼす影響<br>—避難所の快適性に着目して—                | ○元吉 忠寛                                      | 関西大学  |
| 2002 | モバイル利用のライフスタイル・アプローチ I<br>災害情報の取得方法 経年変化について     | ○近藤 勢津子<br>水野 一成<br>鮑戸 弘                    | NTTドコモ モバイル社会研究所<br>NTTドコモ モバイル社会研究所<br>東京大学              |
| 2003 | モバイル利用のライフスタイル・アプローチ II<br>—取得方法別に見る特性について—      | ○水野 一成<br>近藤 勢津子<br>鮑戸 弘                    | NTTドコモ モバイル社会研究所<br>NTTドコモ モバイル社会研究所<br>東京大学              |
| 2004 | 接触確認アプリ（COCOA）の利用を規定する要因の<br>検討                  | ○高木 彩<br>武田 美亜<br>小森 めぐみ                    | 千葉工業大学<br>青山学院大学<br>淑徳大学                                  |
| 2005 | 原発に対する関心や効力感が死の顕現化とリスク認知<br>の関係に及ぼす影響            | ○辻川 典文                                      | 神戸親和女子大学  |
| 2006 | 東日本大震災後における対策選好に対する道徳観と放<br>射線リスク認知の役割           | ○志賀 美喜子<br>小林 智之<br>竹林 由武<br>保高 徹生<br>村上 道夫 | 福島県立医科大学<br>福島県立医科大学<br>福島県立医科大学<br>産業技術総合研究所<br>福島県立医科大学 |
| 2007 | 安心は対策を風化させるか？<br>滋賀県の火災・消防統計の時系列分析               | ○竹村 幸祐<br>清水 裕士<br>畑中 美穂                    | 滋賀大学<br>関西学院大学<br>名城大学                                    |
| 2008 | ポジティブな強みに注目した防災教育の実践（5）<br>改訂版防災強みカルタによる大学での教育実践 | ○豊沢 純子<br>竹橋 洋毅<br>島井 哲志                    | 大阪教育大学<br>奈良女子大学<br>関西福祉科学大学                              |
| 2009 | 放射線リスクに関する情報発信と受け手の理解                            | ○小杉 素子<br>桑垣 玲子<br>土屋 智子                    | 静岡大学<br>(一財)電力中央研究所<br>(一社)複合リスク学際研究・協働ネットワーク             |

発表者索引

発表者索引

(太数字は責任発表者)

<b>C</b>		池田 浩	WS03	か	
Correll, Joshua	IV02	伊崎 翼	<b>1106</b>	柏原 宗一郎	<b>1310</b>
<b>H</b>		石井 国雄	206 <b>1910</b>	片桐 恵子	507
Hall, Judith	708	石井 圭	1106	加藤 樹里	701
<b>I</b>		石井 敬子	<b>1710</b>	加藤 潤三	<b>1808</b> 1809
Igarashi, Tasuku	<b>503</b>	石川 真	<b>601</b>	加藤 仁	<b>804</b>
<b>J</b>		石川 莉緒	1911	加藤 舞	101
Jin, Akari	<b>1702</b>	石黒 格	810 <b>1102</b>	金政 祐司	209 <b>1108</b>
<b>M</b>		伊勢 武史	1805	加納 啓太	308
Morling, Beth	IV01	一條 航平	1405	亀田 達也	211 1301 1403
<b>N</b>		伊藤 健一	1704	唐沢 かおり	WS01 510 801 809 1401
Nakayama, Masataka	202	伊藤 倫	<b>607</b>		1906
<b>O</b>		稲垣 勉	<b>309</b>	唐沢 穰	SY01
Ortolani, Andrea	213	稲葉 哲郎	1611	河合 俊雄	806
<b>T</b>		稲増 一憲	304 <b>705</b> 909 1602	川嶋 伸佳	<b>904</b>
Talhelm, Thomas	1702	乾 眞理子	<b>305</b>	川原 瞳	<b>1906</b>
Tybur, Joshua	IV03	井上 悟	<b>602</b>	河村 悠太	1202
<b>U</b>		井上 裕香子	<b>1402</b>	川本 哲也	WS05
Uchida, Yukiko	202	井上 裕珠	<b>107</b>	き	
Uricher, Raphael	<b>202</b>	井原 嘉之	<b>502</b>	喜入 暁	WS06
<b>Y</b>		今城 周造	603	木川 智美	<b>603</b>
Yakin, Syamil	1005	今城 志保	<b>908</b>	北折 充隆	<b>901</b>
Yuki, Masaki	1702	林 志修	1902 1903 1904	北村 智	<b>1504</b>
<b>Z</b>		岩熊 史朗	<b>307</b>	北村 英哉	WS04
Zaki, Jamil	IV04	岩田 和也	<b>1306</b>	鬼頭 美江	1306
あ		う		貴堂 雄太	<b>1404</b>
青島 未佳	WS03	上淵 寿	407	木村 昌紀	<b>1711</b>
秋本 陽子	<b>1009</b>	打田 篤彦	<b>1805</b>	桐生 正幸	711
鮑戸 弘	2002 2003	内田 由紀子	SY01 1202 1805	く	
浅川 雅美	<b>1507</b> 1609	梅谷 凌平	<b>1406</b>	楠見 孝	<b>109</b>
浅野 孝平	402	え		工藤 大介	<b>110</b>
浅野 良輔	102 209 <b>1704</b>	遠藤 健治	<b>306</b>	久保 昂大	<b>1803</b>
浅原 亮太	1106	お		熊谷 智博	<b>1304</b>
麻生 奈央子	<b>1902</b> 1903 1904	大石 繁宏	1710	栗林 克匡	1004
安達 啓介	1801	大江 朋子	SY01 WS02	黒田 起吏	<b>1301</b> 1403
安達 未来	<b>1801</b>	大賀 哲	1603	桑垣 玲子	2009
安部 健太	<b>907</b>	大倉 韻	1902 1903 1904	こ	
阿部 紗采	<b>1409</b>	大阪 未来	505	小杉 考司	605
阿部 修士	402	大坪 寛子	1902 <b>1903</b> 1904	小杉 素子	<b>2009</b>
天野 陽一	<b>1109</b>	大戸 朋子	1307	後藤 晶	1406
雨宮 有里	903	大西 健太	<b>1611</b>	後藤 崇志	808 <b>905</b>
荒井 崇史	1108	大橋 恵	<b>902</b>	後藤 伸彦	<b>1208</b>
有馬 明恵	<b>103</b> 104 105	岡 佑美	705	粉川 尚枝	806
安藤 寿康	WS05	岡田 葦生	<b>1607</b>	小浜 駿	<b>706</b> <b>707</b>
安念 保昌	<b>609</b>	岡田 勇	1406	小林 知博	1711
い		岡田 陽介	<b>106</b>	小林 哲郎	1502 <b>1608</b>
李 光鎬	<b>1604</b> 1605 1606	岡野 雅雄	1507 <b>1609</b>	小林 智之	2006
李 津娥	1604 1605 <b>1606</b>	岡本 卓也	<b>410</b>	小峰 秀彦	1106
井梅 由美子	902	小川 一美	<b>708</b>	小宮 あすか	1703
井奥 智大	<b>1302</b>	小川 健二	506	古村 健太郎	WS06 <b>209</b>
五十嵐 祐	1007	小川 時洋	1002	小森 めぐみ	709 2004
池内 裕美	<b>1802</b>	尾崎 信	WS01	近藤 勢津子	<b>2002</b> 2003
池上 知子	704	尾崎 拓	<b>1308</b>	さ	
池田 謙一	SY01	尾崎 由佳	903	西條 辰義	1402
		小塩 真司	1110	坂田 桐子	SY01 1909
		尾関 美喜	<b>1201</b>	坂元 章	1509 1510 1902 1903
		越智 啓太	1611		1904
		越智 宏朗	<b>605</b>	坂本 真士	WS04
		小貫 胤羽	1103	坂本 優香	201
		小俣 謙二	<b>1506</b>	佐久間 勲	<b>805</b>

発表者索引

笹竹 佑太	102	武田 美亜	2004	西村 太志	<b>1505</b>
佐藤 裕子	908	竹橋 洋毅	<b>903</b> 2008	ぬ	
佐藤 広英	1511	竹林 由武	2006	布井 雅人	1703
實吉 綾子	WS02	竹村 幸祐	1202 1805 <b>2007</b>	沼崎 誠	107 <b>204</b> 610 1006 1907
澤海 崇文	309 902	竹本 圭佑	<b>1612</b>	沼田 真美	<b>706</b> 707
澤田 奈々実	<b>301</b>	田島 綾乃	<b>304</b>	の	
し		田島 祥	1509 <b>1510</b>	野村 竜也	1901
志賀 美喜子	<b>2006</b>	達 棕介	<b>701</b>	野村 理朗	906
志岐 裕子	103 104 105 <b>1503</b>	鎗石 和香葉	<b>1204</b> 1405	は	
敷島 千鶴	WS05	田戸岡 好香	<b>206</b> 1910	朴 建映	204 <b>1907</b>
繁樹 江里	WS03 <b>1305</b>	田中 知恵	604 <b>709</b> 1912	橋本 剛明	WS01 801 1401 1906
品田 瑞穂	<b>1003</b>	田中 大貴	<b>1408</b>	橋本 剛	<b>1004</b>
渋谷 明子	1902 1903 <b>1904</b>	谷口 淳一	404	橋本 博文	511 1204 1309 1708
島井 哲志	2008	谷田 林士	<b>1105</b>	橋本 泰央	<b>1110</b>
嶋田 咲良	1105	谷辺 哲史	<b>510</b>	長谷川 孝治	<b>1511</b>
島田 貴仁	1002	太幡 直也	509 <b>1501</b>	畑中 千紘	806
清水 裕士	<b>910</b> 1209 1310 2007	田渕 恵	<b>1107</b>	畑中 美穂	2007
清水 佑輔	WS01 <b>801</b>	玉宮 義之	<b>1103</b>	服部 陽介	<b>112</b>
下田 俊介	<b>310</b>	田村 美恵	<b>505</b>	浜井 浩一	SY01
下田 麻衣	310	ち		林 英夫	1507
下司 忠大	WS06	鄭 姝	1509 1510	原田 知佳	<b>1205</b>
謝 新宇	<b>1101</b>	陳 晗	<b>1508</b>	ハン ショウゲン	<b>604</b>
寿 秋露	<b>408</b> 409 1407	陳 曦	<b>1908</b>	ひ	
祥雲 暁代	1902 1903 1904	つ		費 余君	1709
神 信人	308	塚常 健太	<b>1307</b>	樋口 収	203 206 <b>504</b>
す		塚原 拓馬	WS04	樋口 浩一	<b>1905</b>
菅 さやか	<b>509</b>	辻 竜平	<b>205</b>	一言 英文	<b>208</b> 1704 1805
杉浦 秀一	<b>401</b>	辻川 典文	<b>2005</b>	平井 啓	<b>101</b>
杉山 崇	WS04	土田 修平	1409	平石 界	<b>213</b>
杉山 佳生	1803	土屋 耕治	1205	平島 太郎	<b>1203</b>
鈴木 啓太	<b>1705</b>	土屋 智子	2009	平田 葉月	1806
鈴木 公啓	<b>1901</b>	常岡 充子	<b>1002</b>	平野 浩	<b>1601</b>
鈴木 万希枝	<b>1610</b>	津村 健太	<b>501</b>	ふ	
鈴木 優佳	806	て		福島 慎太郎	<b>1202</b>
須藤 美佳	<b>810</b>	寺口 司	207	福田 怜生	<b>710</b>
澄川 采加	309	と		藤井 聡	WS01
せ		寶 雪	1508	藤井 達也	103 104 <b>105</b>
泉水 清志	<b>108</b>	藤後 悦子	902	藤川 洋子	1208
そ		苔米地 飛	<b>809</b>	藤島 喜嗣	302 <b>303</b>
蘇 雨青	711	外山 みどり	502	藤浪 遼太郎	604 <b>1912</b>
た		豊沢 純子	<b>2008</b>	藤村 直子	908
ターン 有加里ジェシカ	<b>1401</b>	な		藤村 まこと	<b>1603</b>
田井 光春	WS01	中井 彩香	204 <b>610</b>	藤本 学	<b>703</b>
高 史明	903	中井 隆介	402	古川 善也	<b>406</b> 1101
高井 範子	<b>702</b>	中川 裕美	<b>1206</b>	古里 由香里	1511
高木 彩	<b>2004</b>	中川 由理	<b>111</b>	古谷 嘉一郎	1511
高木 英至	<b>1303</b>	中越 みずき	<b>1602</b>	古橋 健悟	<b>1007</b>
高岸 治人	408 409 <b>1407</b> 1408	中島 健一郎	<b>608</b> 1101	ほ	
	1707	中島 誠	<b>1807</b>	方 予辰	<b>1703</b>
高田 咲季	<b>808</b>	中田 星矢	<b>1706</b>	堀毛 一也	<b>611</b>
高野 了太	<b>906</b>	中西 大輔	213 1206	堀毛 裕子	611
高橋 楓	201	仲間 大輔	212 <b>1207</b>	堀田 結孝	SY01 <b>1001</b>
高橋 伸幸	1204 1405	中村 早希	<b>909</b>	本郷 亜維子	<b>405</b>
高橋 英彦	1707	中谷内 一也	802	本多ハワード 素子	1911
高橋 茉優	1301 <b>1403</b>	中山 真孝	<b>806</b>	本間 祥吾	<b>506</b>
高橋 玲央	1002	縄田 健悟	WS03 1603	ま	
滝口 雄太	<b>711</b>	に		米谷 淳	1709
田口 茂	506	新井田 恵美	<b>203</b> 504	前田 楓	<b>511</b>
竹内 真純	<b>507</b>	新谷 優	<b>1005</b>	前田 洋枝	<b>1804</b>
竹澤 正哲	506 1404 1409 1706	西口 雄基	WS02	前田 洋光	<b>1806</b>



発表者索引

前村 奈央佳	1808	<b>1809</b>	山本 琢俣	<b>407</b>
正木 誠子	1604	<b>1605</b> 1606	山本 仁志	1406
増井 啓太	WS06	<b>803</b>	よ	
松井 豊	1009		横井 良典	<b>802</b>
松尾 由美	<b>1509</b>	1510	横田 晋大	1206
松崎 圭佑	204		吉澤 寛之	<b>102</b>
松下 光次郎	102		吉田 綾乃	<b>210</b>
松田 哲也	408 409 1407 1408 1707		吉田 琢哉	102 <b>712</b>
松村 楓	<b>1309</b>		吉武 久美	901
松本 良恵	<b>308</b>		吉富 広之	<b>1008</b>
み			り	
三浦 麻子	101 207 213 909	<b>1502</b>	李 禕飛	204 <b>1006</b>
	1701		李 述冰	<b>1707</b>
水鳥 翔伍	<b>1405</b>		李 楊	110 213
水野 一成	2002	<b>2003</b>	林 萍萍	<b>1709</b>
水野 邦夫	602		わ	
水野 景子	<b>1209</b>		脇田 貴文	1908
源 健宏	1008		渡壁 政仁	<b>212</b>
箕浦 有希久	1805		渡部 麻美	<b>606</b>
三船 恒裕	213 1402		渡邊 聡	1804
宮川 裕基	<b>404</b>		渡邊 万祐子	1705
宮崎 淳	1408		渡邊 寛	<b>1911</b>
宮崎 弦太	<b>201</b>		綿村 英一郎	1302
宮島 健	1603			
宮本 聡介	509			
三好 智子	1208			
む				
向居 暁	<b>403</b>			
村上 幸史	<b>508</b>			
村上 道夫	2006			
村田 光二	807			
村本 由紀子	212 1207 1705			
村山 綾	<b>1701</b>			
村山 美穂	1707			
も				
毛 新華	1711			
元吉 忠寛	<b>2001</b>			
森 久美子	<b>1010</b>			
森 隆太郎	<b>211</b>			
森口 佑介	1205			
森下 正修	305			
守谷 順	1908			
や				
保高 徹生	2006			
八ッ塚 一郎	<b>1810</b>			
柳澤 邦昭	<b>402</b>			
柳田 航	<b>807</b>			
山形 伸二	WS05			
山縣 豊樹	506			
山縣 芽生	<b>207</b>			
山口 彩菜	<b>1909</b>			
山口 裕幸	WS03 1305			
山口 雄人	711			
山崎 梨花子	<b>1708</b>			
山下 倫実	<b>1104</b>			
山下 玲子	103 <b>104</b> 105			
山田 一成	<b>302</b> 303			
山田 順子	408 <b>409</b> 1407 1707			
山村 麻予	101			
山本 佳祐	<b>704</b>			





日本社会心理学会第 62 回大会 賛助団体 御芳名

【広告】

アイブリッジ株式会社

MDPI

株式会社北大路書房

株式会社北樹出版

株式会社講談社

株式会社日本能率協会総合研究所

株式会社ナカニシヤ出版

株式会社誠信書房

株式会社ちとせプレス

株式会社創元社

株式会社有斐閣

教育情報出版

株式会社テキスト

(敬称略)

大会を開催するにあたり、上記各企業・団体より多大なご支援をいただきました。  
ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2021 年 8 月

日本社会心理学会第 62 回大会準備委員会

# JSSSP 2021

日本社会心理学会

## 日本社会心理学会第 62 回大会 準備委員会

委員長 敷島 千鶴  
事務局長 大江 朋子

委員 飯島 雄大  
岡本 潤子  
堀田 結孝  
尹 成秀

ロゴデザイン 宮本佳子(追手門学院大学)  
写真提供 学校法人 帝京大学

### 日本社会心理学会第 62 回大会プログラム

発行日 2021 年 8 月 5 日  
発行者 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359  
帝京大学文学部心理学科  
日本社会心理学会第 62 回大会準備委員会